

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立明倫小学校

1 自己評価書

教育目標	自ら考え進んで実践する心豊かな子どもの育成 ～笑顔と感動、みんなの明倫小学校！～					
基本方針	凡事徹底 ～当たり前のことを当たり前に～					
本年度 重点目標	①安全・安心な学校づくり ②確かな学力を育てる教育の推進 ③学校全体で進める生徒指導の充実 ④特別支援教育の充実 ⑤豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 ⑥教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化 ⑦やりがいを重視した高度専門職としての働き方改革の推進					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B	
			・具体的な対策の実施	B		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	C	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
			・教師アンケート	B		
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・児童生徒アンケート	B	B	
			・教師アンケート	B		
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・保護者アンケート	B	B	
			・児童生徒アンケート	C		
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	(成果と課題) ○地域に出向いたり、地域の方を招いたりする学習を行うことにより愛郷心が育ってきた。 ●授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めたが、普段の授業に浸透するまでには至らなかった。 ●学校での読書に対する取組は向上の兆しを見せるようになってきたが、家庭での読書にはつなげることができなかった。					
	(改善策等) ○今よりも一層、授業モデル「N見方・考え方を変える」を意識した授業を計画し、実践する。 ○読書の魅力を児童や保護者に発信するとともに、家庭で読書時間を確保できるように、家庭学習の在り方を検討する。 ○地域の方々との交流を取り入れた学習を各学年が定期的に行う。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B		
		・保護者アンケート	B			
		・児童生徒アンケート	B			
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B		
		・児童アンケート	B			
	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B			
		・児童アンケート	B			
(成果と課題) ○学校を「楽しい」と感じたり、友達と「仲良くしている」と判断したりしている児童が多く、休み時間は活発に遊ぶ姿が多く見られる。 ●「大人に相談できる」を肯定する児童が少し増えたが、まだまだ十分な肯定率ではない。						
(改善策等) ○困ったことが起きたときはすぐに大人に相談すること、学級担任に素直に話すことを根気強く指導、啓発していく。 ○相談を受けたときは児童に寄り添って共感的に傾聴する。 ○褒めること、認めることを継続するとともに、掛け替えのない存在であることを子どもたちに伝える。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
	（成果と課題） ○個人としての働き方改革を進めている職員が更に増えた。 ○職員同士での協力体制、話しやすい職場環境は構築されている。 ●80時間を超える超過勤務の教職員はまだ多い。月によってこの人数は増えたり減ったりしている。 （改善策等） ○個人を尊重すること、お互いに助け合うことで、一層の心理的安全性の高い職場を目指す。 ○自己の勤務状況を正しく把握することで、個人の意識改革を行う。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
（成果と課題） ○6年児童発案のお弁当交流会を実現させた。学校運営協議会委員からも「楽しかったのね。今度はお弁当作り手伝ってね。下学年と遊べて良かったね。」と肯定的な意見をいただいた。 ○ホームページや通信、来客への対応に関しては肯定的な評価をいただいた。 （改善策等） ○今後も児童を交えての熟議を積極的に取り入れ、「教師」「児童」「保護者」「地域」の思いが融合した学校づくりを目指す。 ○授業参観を外部に公開したり、学校行事への参加を地域に促したりして、学校の教育活動をより「見える化」する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満